

月例会「品川宿」(平成23年5月14日(土))

『“お江戸日本橋七つ立ち”と唄われた東海道の旅は、暗いうちに日本橋を出立、高輪の大木戸を過ぎるころには東の空も明るくなってやがて品川宿に到着しました。多くの旅人はここで海を目の前にして朝食をとって、これからの旅の安全を願ったことと思われます。一方、長い旅を終えて品川宿に到達した旅人は、江戸を前にして諸々の旅の思い出とともに品川宿で一夜をあかし、その疲れを癒しながら、明日の江戸入りに備えたものと思われます。近代化された東京の中にあって、現在も北品川から南品川にかけての町並みにはどこことなくかつての面影が残ると思うのは気のせいでしょうか。』(神奈川新聞社発行「神奈川の宿場を歩く」)

東日本大震災の発生により4月度例会「日本橋」を中止としましたが、この5月度例会「品川宿」は、“東日本大震災被災地支援チャリティウォーク”として開催し、参加費全額を義捐金として寄付させていただきました。



駅から集合場所までの道案内は、お客様と最初に顔を合わせる大事な仕事です。特に品川駅のような大きな駅では改札口やコンコースそして集合場所入口等に黄色い旗がお待ちしています。



品川宿例会では40名もの会員が出席しました。受付・誘導・集金・資料配布そしてガイドと多様な仕事を分担します。受け付け開始前には最後の打ち合わせを行います。

集合時間は9時30分、受付開始は9時ですが、早いお客様は8時半頃にはお見えになります。



先着順に班編成を行います。一日のコースの概要や品川宿全般の説明等々を行い、ウォーミングアップのストレッチをしたらいよいよ出発です。





まず最初は「御殿山」です。江戸時代、桜の名所として賑わった御殿山も、今は高層ビルが立ち並んでいます。

京浜急行の踏切を越えると品川宿に入ります。



三代将軍家光と沢庵和尚が問答をしたという「問答河岸」の標碑は工事のため無くなっていました。

外壁がなまこ壁だったことから「土蔵相模」と呼ばれた妓楼相模屋は、今は立派なビルに変わっていますが、説明書きが立っています。



利田(かがた)神社には、寛政10年(1798)、品川沖に迷い込んだ鯨の供養碑「鯨塚」があります。



ペリー来航のとき、江戸防衛のため造られた陸続きの五角形の砲台跡で、現在は御殿山下台場跡から発見された石垣と、第二台場の品川灯台を模した記念碑が建てられています。



江戸時代は、建坪135坪の本陣でしたが、現在は聖蹟公園となっています。

車の多い道は一行縦隊で歩き



ます。



品川神社へは長い階段を上ります。
東海寺の鎮守であった品川神社では結婚式が行われていました。



品川神社の裏手には「板垣死すとも自由は死せず」の板垣退助の墓があります。ここは東海寺の塔頭だった高源院の墓地でした。



東海寺大山墓地にはいくつもの著名な墓があります。
「鉄道の父」と呼ばれた井上勝の墓は、新幹線に見守られています。
「国学の父」賀茂真淵の墓には鳥居があります。



沢庵和尚の墓は、丸い自然石です。沢庵和尚は、三代将軍家光に重用され東海寺の開山となっています。
沢庵づけは、沢庵和尚の創案といわれています。



東海寺は、塔頭が17院に及び4万7千坪の広大な寺域を有していました。
東海寺の裏手にある堀田家の墓石は、今回の地震で倒壊していました。





荏原神社は、南品川の鎮守ですが、今は北品川にあります。

品川寺は「ほんせんじ」と読みますが、江戸六地蔵の一つがあります。



海雲寺には防火の神様千躰荒神が祀られています。

鮫洲八幡神社の辺りは、江戸時代は海苔の生産地でした。



昼食は花街道の運河沿いで…
天気さえよければ最高です。

浜川橋は、通称「涙橋」…涙ながらの別れの場所でした。



鈴ヶ森刑場は、明治4年に廃止されるまで白井権八、八百屋お七など多くの罪人が処刑されました。

ウォークのゴールは、磐井神社です。



クールダウンの体操で終わります。お疲れ様でした。

会員は反省会です。問題点や反省点の把握は次回への貴重な財産です。

